

第3回児童部会研究会（まとめ）

1. 日 時 平成23年8月24日（水） 14:30～16:30
2. 場 所 守山保健所 多目的ルーム
3. 出席者 40名
4. テーマ 発達障碍の子どもへの関わりと親への援助 ～スクールカウンセラーの視点から～
講師 江口 昇勇 氏（日本福祉大学子ども発達学部心理臨床学科教授）

■主な内容

- 発達障碍の正しい知識を持つことが大切
- 車に例えればエンジン（脳）の故障（障碍）であり、運転手（子ども）の責任ではない。
- この子が苦しんでいるんだという認識。
- 行為の責任をとらせ、人格を否定しない
「～をしたから叱ったのであって、あなたが嫌いだからではない」と伝えることで、子どもは嫌われていないと思えることができる。
- 保護者の責任を厳しく問わないことも大切。
- 親は自分を守るために先制攻撃に出てしまうこともあるので、親へのねぎらいと励ましを忘れないこと。
- 障碍は治らない、引き受けるしかない
- 「みんなちがって、みんないい！」という考え方が大切
- 痛み分けの社会を学ぶ → 苦勞し、難儀することで自我を鍛える → やさしさを耕す
- 対応困難な保護者の場合は健康度を見立てることが必要
- 健康度の低い人ほど障碍を受容できていない
- 障碍を社会（学校・福祉施設）が責任を持って克服してくれるべきと考え、一方的に要求する
- 学校側は説明責任をしっかりと果たして、学校ができること、できないこと、できたらよいと思えることを区別して、丁寧に繰り返し説明していく。説明にぶれがあったり、発言が異なることが不信感を招くので、十分に検討してから伝えること
- 自分一人で対応しようとせず、必ずチームで対応する（コミュニティ・アプローチ）



■質疑応答

Q:「健康」というフレーズが何度か出てきたが、もう少しどんな意味合いで使われているのかわかりたい。

A:たとえば、親御さんと話しをしていて、こちらの思った意図というのが、8～9割正確に伝わっているなどと思う人は多分健康な人。説明をしているんだけど、その説明が入っていかない、あるいは違う理解になってしまい、そのためにいつもやり取りがちぐはぐになってしまうことがある。そういう人がいるとすると、8割9割伝わる人とそこに入っていない人と

いう時に健康度というものが現れてくる。

それはここだけではなくて、子供さんたちへの対処方法でも、子どもの気持ちに沿って、子どもの気持ちを先に読み取って付き合うお母さんと、全く子どもの状況を見ずに自分の都合で動いてしまうお母さんとは当然子どもの成長に何らかの問題が出てきます。

そういったときに、おそらくこの人は何らかを抱えているのではないか、というふうにみる。なぜそうするかというと、そう思うことでお母さんを非難することではなく、このお母さんはこういうことがあって難しんだらうな、だったら、そこをどう補ってあげればいいかな、というふうを考える。どういった援助がこの人に必要なのかを正確に読み取ることが見立てというところかなと思います。

■ 障害告知について（補足説明）

障害告知というのは、親がわが子の障害を受け入れることが出来るかどうかの決定的な場。この障害告知というところをわが国では丁寧にしていないのではないかなと思う。

医療機関や専門機関で、親に障害を伝える時に大切な3つのポイントを挙げたい。

① 必ず夫婦二人に伝達する。

母親だけにそれを言うと家に帰った時に、こう言われたと夫に伝えると、そんな血筋はないといわれる。そうすると、お母さんが孤立してしまう。あるいは、もう話したくないというふうになってしまう。遺伝などが原因ではないし、どの親からでも生まれる可能性はある。

夫婦が揃っている時に伝達することで、夫婦間に溝が減る。そういった意味で障害告知は夫婦が揃っているときに行うということが原則だと思います。

② 告知をするときに大まかな発達ラインを示す。

例えば、発達検査や知能検査をすると、大体の障害の程度が分ってくる。そういうときに今の状況から考えると、小学校あがるまでに、こういったことができて、こういったことが出来ない。そういった場合にどういった施設に行けば、こういったことが利用できるよね。小学校は、最初は多分普通学級だけど、3年生くらいになると特別支援学級でないちょっと難しいかな、中学校ではこんなところがあって、というふうに大まかな発達ラインと利用できる福祉施設や学校の状況がわかっていると、親御さんはある程度見通しが立てられる。

いきなり、障害だよといわれ、海に放り出されるのと、おおまかなラインを示された方とは全然違う。心の準備を始めにしてもらえると、親御さんにとっては楽に子どもと向き合えるのではないかな。

③ 何回でも説明する。

一回の説明で納得できないと思うから、何回でも説明するから、何回でも来ていいよ、ということ伝えてあげる。

この3点をセットで伝えてあげることで、その後の障害受容がずいぶん楽になってくるかなというふうに思っています。

